学校番号	103

令和８年度　情報科

教科	情報	科目	情報Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「情報Ⅱ」　（東京書籍）						
副教材等	情報Ⅱ　学習ノート　（東京書籍）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・『情報Ⅰ』で身に付けた知識や技術について、将来に向けて、更に、高度な実践的活用方法を習得し、また、コンピュータや情報ネットワークについて深く学び、情報の活用によって創意工夫する力を身に付けましょう。
・教科書の内容理解を深めるとともに、コンピュータ実習も絡めることにより、極めて実践的な学習となるため、事前予習は必要になります。また、通常の教科とは異なり、1単元、終われば、学習の終了ではなく、全てが、複雑に、絡み合っていますので、反復学習も必要になってきます。
　また、基礎知識が有っても、コンピュータを使いこなせなければ意味はありませんので、毎授業時間の課題作成も必要となります。課題作成を順調に進める事が出来れば、それに伴うある程度の知識は備わっていると言う証明にもなります。ただ、教科ですので、基礎知識、実技能力の一方だけ出来れば高評価になると言う訳では有りません。知技両道、どちらも、しっかり出来て高評価に繋がりますので、毎時間、緊張感を持って、授業に臨んで下さい。
・学習することが広範囲になり、様々なことが絡んできますので、毎授業は集中し、授業内容をしっかり理解するように積極的に取り組みましょう。
・細かな学習の指示等は、Classroom で行いますので、新着メッセージがないか、必ず確認して下さい。

2　学習の到達目標

・情報社会に対応できる能力と態度を育成します。
・情報に関する科学的な見方や考え方を身に付け、社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解します。
・情報や情報技術を活用するための知識と技能を身に付けます。
・プログラミングだけではなく、実生活にも活用可能で、効果的な能力を身に付けます。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いることができる。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	1章・2章	情報社会の進展と情報技術 コミュニケーションの多様化 人間の知的活動への影響 メディアの特性と利用 コンテンツ制作 コンテンツの発信	a: 情報システムとそれを実現している情報の流れを理解する。 ・情報システムの活用と，社会への影響を知る。 b: コミュニケーション手段の分類や特徴を考えることができる。特性に応じたメディアの利用を判断できる。 c: 情報技術の発展の理解と活用について、粘り強く，多様な意見をまとめようとしている。	考査 または 確認ﾃｽﾄ 課題 観察等	考査 または 確認ﾃｽﾄ 課題 観察等	課題 観察等

2学期	3章	社会にあふれるデータ データベースの管理と操作 データの収集と整理 データの分析と分類 モデルの評価と検証 機械学習と人口知能	a：データの分類や特性を理解できる。 ・データベース管理システムの特徴を理解できる。 b：適切な欠損値の扱いを考えることができる。クラスタリングを行い，その結果を考察することができる。 c：積極的にデータの収集を行い、粘り強く分析に取り組んでいる。	考査 または 確認ﾃｽﾄ 課題 観察等	考査 または 確認ﾃｽﾄ 課題 観察等	課題 観察等
3学期	4章	情報システム 情報セキュリティ技術 情報システムの設計 情報システムのプログラム	a：ICタグやNFCなど，情報システムを実現している技術と情報の流れを理解する。 b：情報システムのサービスを利用することによる暮らしの変化，効果や影響を考えることができる。 c：システム開発において、責任をもって自らの担当に取り組んでいる。	考査 または 確認ﾃｽﾄ 課題 観察等	考査 または 確認ﾃｽﾄ 課題 観察等	課題 観察等

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度